

【新刊案内】

色素細胞 第2版 —基礎から臨床へ—

伊藤祥輔・柴原茂樹・錦織千佳子 監修

慶應義塾大学出版会

《内容》 色素細胞は色素をつくることに特化した細胞で、生命進化の過程で誕生した。メラニンに代表される色素の産生は、個体の生命や種の維持にも重要な形質で、皮膚の日焼け、傷ついた植物の黒化、動物の保護色や婚姻色などに関与している。色素細胞は皮膚のみならず内耳や網膜にも存在し、視聴覚機能に重要な役割を演じている。

本書は、色素細胞研究を網羅的に紹介するもので、2001年に刊行した初版の改訂版である。基本的な章だては踏襲しつつ、この間に発展した領域を追加した。基礎領域では「色素幹細胞」や「メラノソームの形成とセラチノサイトへの輸送」、皮膚科学領域では「メラノサイトの機能制御と美白」や「尋常性白斑の診断と治療」などである。

《目次》

第1章 脊椎動物における色素細胞の発生／第2章 メラノサイトの発生過程／第3章 色素幹細胞／第4章 メラノサイトの増殖・分化に働く外的要因／第5章 メラノソームの形成とセラチノサイトへの輸送／第6章 メラニン合成を規定する鍵酵素チロシナーゼと関連タンパク質／第7章 ネズミの毛色発現に関与する遺伝子／第8章 色素細胞の分化を制御する転写因子MITF／第9章 色素形成にかかわる細胞外シグナルおよび細胞内シグナル経路／第10章 色素型転換の分子機構／第11章 メラニンの構造とその機能／第12章 変温脊椎動物の色素細胞／第13章 魚類における色素形成の遺伝的背景とその意義／第14章 昆虫の色素合成と紋様形成／第15章 色素異常症の動物モデルとしての鳥類色素変種／第16章 遺伝子異常から解明される先天性異常症／第17章 皮膚以外に存在するメラノサイトの機能／第18章 紫外線からの生体防御とメラノサイトの存在意義／第19章 メラノサイトの機能制御と美白／第20章 尋常性白斑の診断と治療／第21章 メラノサイトの増殖性病変としての色素細胞母斑とメラノーマ

《監修者》

伊藤祥輔： 藤田保健衛生大学医療科学部化学教室・名誉教授

柴原茂樹： 東北大学大学院医学系研究科細胞生物学講座分子生物学分野・教授

錦織千佳子： 神戸大学大学院医学研究科内科系講座皮膚科学分野・教授

《体裁》

B5判並製，328ページ，本体7500円＋税，ISBN 978-4-7664-2252-8，2015年8月21日刊行



《ご注文・お問合せ先》

慶應義塾大学出版会 営業部 〒108-8346 東京都港区三田2-19-30

Tel. 03-3451-3584 Fax. 03-3451-3122